

令和 6 年能登半島地震の連発は注水水素核融合地震！(?)。 2023/01./02.

地下水豊富な熊本での長期間地震原因はプレートスリップでなく、注水水素核融合地震！。

能登も地下水は公認されており、これも誘導連発注水水素核融合地震！(?)。

一つ疑点は少数の M 強度(5以上は通常歪地震！)が大きすぎる。連発する M=2,3,(4?)は注水で熊本同様に今後長期継続で厄介になるだろう、

注水地震_核融合エネルギー値の仮定と必要水量(mol 換算)〈非常に粗推定〉:

http://777true.net/D:/the-convergence-to-genuine_J48-Water-Injection-Earthquake-the-Mechanism.pdf

地下に注水すると地震がおきるのは今では経験則として認知にある。過去に地震が無い地域で地震が起きた、既成地震理論＝地下プレートエネルギー蓄積が無い地域で地震が起きるには地下での爆発エネルギーが必要、化学爆発では難しい、**何と小規模核融合?!!**

その準定量基礎を以下で提供、水がわずかに数十 g でも M2 の地震が可能!!。

もし地下歪エネ蓄積域だとそれを引き金に M4~7 地震発生の可能性が起きる。

1: 高電子濃度の金属表面は静電反発力減少に作用、それが**常温核融合反応**に、

2: 他方で超高压下では全物質は金属化する。

かくて核心は震源高压岩石亀裂面が核融合触媒空間になる事の証明。

常温核の理論

<http://www.777true.net/img0010-General-Analysis-on-Room-Temperature-Nuclear-Fusion.pdf>

当時 1989 のフライシュマン&ポンス実験は詐欺扱いされましたが、近日は公認にあるとの事です、筆者の 1991 論文も日本化学会から公刊忌避されました。

取り急ぎ不要の誤解防止に揭示します。確度の高い詳細は学会が注水核融合地震を認知せねば始まらないです。プレートスリップ通常地震では地下震源層圧力変化に伴い**電荷密度変化が上空に反映**しますが、注水地震は別メカニズムで**通常歪地震の電荷密度変化観測の地震電磁気予知メカニズ**から外れてます。

気象庁地震情報詳細

<https://www.data.jma.go.jp/multi/quake/index.html?lang=en>

初回の大型大被害の Noto, Ishikawa Prefecture **M=7.6** 2024/01/01 16:24
は断層ズレ地震。